

「エ・オラ・カ・オレロ・ハワイ」(ヴィジョンが広がるにつれて)

言語復興のためのハワイ語による教育モデル

ケイキ カワイアエア (ハワイ大学ヒロ校)

1980年代はじめ、ハワイは自らを取り戻す文化復興のただなかにあった。失われたアイデンティティ、土地、文化、言語を再び目覚めさせ、活用しようという時代なのだった。当時、ハワイ語を母語とする成人人口は数百人を切っており、この言語を母語とする子どもたちも数えるほどしかいないなかで、「エ・オラ・カ・オレロ・ハワイ」が、ハワイ語復興運動を活性化する中核組織となったのである。

本報告は、ハワイ語の存続の足固めをする、この団体の30年にわたる成長と発展の事例を提示することで、ハワイ語復興運動について論じることにはしたい。とりわけ、現在、「ホ・オナ・アウアオ・マウリ・オラ・ハワイ」という名の、保育所から大学の博士課程にいたる児童生徒学生を有する教育課程を中心に述べる。具体的には、ハワイ語を取り戻し、再活性化させるために用いられる「カイア・オレロ」すなわちハワイ語による教育方式の特徴、成功例、問題点を取り上げる。